



TONOMACHI

HANEDA

# 羽田-殿町発のオープンイノベーション グローバルな価値を創造する ウェルビーイング都市「殿町」



慶應義塾大学  
ウェルビーイング  
リサーチセンター  
特任教授・  
殿町リサーチコンプレックス  
オーガナイザー

吉元 良太 氏

世界的な成長が見込まれるライフサイエンス・環境分野を中心に、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点、神奈川県川崎市殿町地区。そこで展開されるリサーチコンプレックス推進プログラムの中核機関である慶應義塾大学が中心となり、今年3月上旬、新たに「殿町ウェルビーイング宣言」を発表した。

ムを展開してきた。今回の宣言を行うにあたり吉元氏が、今後のキーパーソンとなる4氏とともに、殿町の未来とグローバルなSDGsへの貢献について語った。

吉元 人生100年時代といわれるなか、本プログラムは「健康長寿」をキーワードに様々な取り組みを進めてきましたが、今後はさらに一歩進んだ「ウェルビーイング(健康、幸福)」、すなわち身体的・精神的・社会的に良好であることが重要だと認識。殿町に関係する様々な機関との活発な交流により、皆が幸せになる街づくりを推進します。

前野 ウェルビーイングである人は、健康長寿なうえ、生産性や創造性も高いといわれています。最先端の科学技術や教育研究、そして地域間交流の基盤がある殿町は、新しいイノベーションの拠点としても期待できます。

フィリップ スマートシティへの取り組みが世界のトレンドになっていますが、ウェルビーイングをテクノロジーやイノベーションと掛け合わせることで、都市がよりスマートになると思います。殿町のスタンダードを高め、ウェルビーイングの質を向上させたいです。

## スマートシティの構築で 幸福をクリエート

慶應義塾大学は、2016年、殿町地区に慶應義塾大学殿町タウンキャンパスを開設。国立研究開発法人科学技術振興機構による、地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラ

## イノベーション創出を促す 新しい国際交流の拠点に

慶應義塾大学  
ウェルビーイングリサーチセンター長

前野 隆司 氏

殿町リサーチコンプレックスでは、人材育成を推進。「地域・国際連携しながら、イノベーションを生み出すための、多様な人との交流の核を形成していきます」

## 科学と社会、家族をつなぎ 研究者のウェルビーイングに

Scientific Officer,  
Human Frontier Science Program(HFSP)

足立 剛也 氏

活動拠点のフランス、ストラスブールから中継。「産官学連携を推進し、民の立場からもサポート。世界で活躍する日本人研究者のウェルビーイングを醸成します」



## SDGsの11項目に貢献する バイオテクノロジーを開発

東京工業大学生命理工学院  
准教授

相澤 康則 氏

1年前、本プロジェクトに参画。2050年の産業基盤になり得るゲノムバイオを研究。「SDGs達成に寄与する、持続可能な循環型バイオエコノミーを確立したいです」



## パートナー企業と連携し 各国のスタートアップを支援

Plug and Play Japan  
代表取締役マネージング・パートナー

フィリップ・誠慈・ヴィンセント 氏

スタートアップへの投資・支援を行う、日本法人の代表。「我々が国内外のゲートウェイとなり、世界各地のベンチャー、イノベーションを活性化させたいです」

## 多様な異分野融合が イノベーションのきっかけに

ソーシャルメディアの発達を受け、殿町は人と情報が行き交うリアルとバーチャルのネットワークづくりのグローバルな推進を宣言。さらに、サイエンスとアートの多様な思考の融合も図る。

相澤 最先端の技術があっても、社会にそれを受容するプラットフォームがないとその価値を生かせません。特に、最先端技術に想像力が追いついていないバイオの世界は、まさにそんな状態です。私はこの数年間、アーティストの方々と交流を重ねていますが、想像力豊かな彼らとのコラボによって、テクノロジーの新たな可能性を発信したいと思っています。

吉元 従来のサイエンスの枠にとどまらず、アートをはじめ多様な要素を取り入れたインタラクションが必要ですね。川崎はスポーツと音楽も盛んな街。殿町を異分野思考の出合いの場とし、イノベーション創出につなげていきたいです。

異分野の研究や他大学、企業との協働

を推進する文化が慶應義塾大学にはあるが、それが日本全体に広がれば、より大きなイノベーションの可能性も。

前野 慶應義塾大学にはスタートアップの土壌もありますが、世界から見ればまだまだ小さい。米スタンフォード大学が起点となって形成されたシリコンバレーのように、産学官の連携を強化し、世界中の大学から注目される環境を整えていきます。

## 研究者とその家族の ウェルビーイングをサポート

足立 重い病気の患者さんにはグローバルなデータシェアリングが必要なように、イノベーションも科学と社会、研究者と研究者の家族をつなぐことが大切。私に関わっているHFSPのプログラムは30年間で28人のノーベル賞受賞者を輩出しましたが、身近のノーベル賞受賞者も「家族があってこそイノベーションや新しいものが生まれる」と話していました。私は研究者の家族のウェルビーイングを高め、研究者が安心して研究にまい進できる体制を整備していきます。

吉元 多くの研究者にとって、殿町が将来活躍できる魅力的な街となるべく、インキュベーションで新たなウェルビーイングの価値を生み出し、アクセラレーションで社会実装を促進します。

4月からは慶應義塾大学と川崎市産業振興財団が中心となり、研究を社会実装するための、新たなフェーズが幕を開ける。殿町の未来に期待したい。

## 研究者の家族に向けた助成金 Cheiron-GIFTS

足立氏が所属するNPO法人ケイロン・イニシアチブは、研究者とその家族を財政的に支援するための助成金制度Cheiron-GIFTSを創設。配偶者キャリアや子供の教育など家族の問題で留学や研究継続を断念しないための支援を行う。2020年の支援テーマは「研究者の家族の海外でのキャリアパス問題」。助成金の応募期間は4月1~30日。支援金額は2~4家族に対して10万円から最大40万円程度。詳細・応募方法は <https://www.cheiron.jp/grant>